

電材流通新聞

(昭和54年12月31日第三種郵便物認可)

第2392号

2022年(令和4年)2月3日(木曜日) (毎週木曜日発行)

発行所
電材流通新聞社
大阪本社/大阪市北区天神橋5丁目
8番12号 ☎06(6352)5341 傳内
FAX 06(6357)7348
東京支社/東京都港区新橋5丁目7番8号
〔永井ビル3階〕☎03(3434)8373 傳内
FAX 03(3434)0346
http://www.denzai-ryutu.co.jp/
発行人
山田剛

新年を迎えて

株式会社明工社
明工商事株式会社
株式会社福島明工社
代表取締役社長

川村 龍俊



カーラジオから聞こえてきたある言葉が妙に引っ掛かり、帰宅して番組をネットで調べてみたら、その時話していたのは若き歌舞伎

役者、尾上右近だとわかった。ところが今度のは、どういふ文言だったのかが思い出せなくなった。助手席に乗っていた家内に聞いてみたところ、家内も記憶が曖昧だという。もう

変えていくもの、
変わっていくもの、
変えては
いけないもの、
変わらないもの
がある。

続けて彼はこの言葉

くれたことで私に伝わったのは本当にありがたい。
3年半前に社長になったときから、自分の立場は、創業者ではなく、事業承継者である

と任じ、その意味を考

我儘を通そうとしてもいいかもしれないが、事業承継者はしてはいけない、とも。

私は、この4つの言葉は、俳諧の理念や歌舞伎の芸についてだけでなく、経営においても重要なことを言っていると感じた。

事業承継者の心得

世の事業承継者の中には、己を信じて「変えていくこと」ばかりに夢中になる人が、多いように思われるが、「変えてはいけな

本10月1日に明工社は創業90周年を迎えます。コロナ禍で先は見えないようなだれ

その言葉には二度と会えないだろうとあきらめていたら、数日後、家内が彼のブログを見つけた、これでしょ、と示してくれた。そう、それだよ。

物事には

を「人生の先輩から教わった」と書いていた。おそろしく、オリジナルは、芭蕉が説いたという「不易流行」という俳諧の理念ではないかと思うが、彼の先輩がこのようなやさしい言葉遣いに仕立てて

え続けてきた。たとえば、私や社員たちが今ここに居られるのは、先達のおかげであり、果てしなく広がるお客様

の連なりのおかげである、とか。創業者なら極端な話、自分が会社なのだから、どんな

のでなく、4つの言葉のバランスをとりながら舵取りをすれば、必ずお客様に満足していただける未来を呼び込めると信じて、新年の挨拶いたします。